

中期的石油市場報告書 2015 の概要

I E A（国際エネルギー機関）が 2015 年 2 月 10 日に中期的石油市場報告書（Oil Medium-Term Market Report）2015 を公表したところその概要以下の通り。同報告書は、毎年 1 回 I E A が公表する出版物であり、今回は 2020 年までの石油市場を見通したもの。

1. 主なポイント

（1）今後の石油市場の市場調整の特徴

今後の石油市場の再調整（rebalancing）は過去の局面とは異なる見通し。すなわち、再調整は、比較的速やか、かつ限定的。今後、原油価格は、最近の低価格よりは高いが、近年 3 年間の高価格よりは相当程度低いレベルで安定化。北米のライトタイトオイル（L T O = light tight oil）供給の高い価格弾力性がこれまでの過剰/過小な市場調整を限定する役割を果たす。一方で、需要の価格弾力性は世界経済及びエネルギー市場の構造変化で低下。

（2）供給サイド

米国の非在来型原油生産の生産増は減速するが、2020 年までは引き続き世界の原油生産の最大の増加要因。一方で、ロシアは、2020 年までに約 56 万バレル/日の減産。O P E C 諸国の生産増は 2020 年に 120 万バレル/日であるが、その大半はイラクの増産（イラクは、2014 年 12 月に月間平均 370 万バレル/日、過去 35 年間で最大まで増産）。一方で中東や北アフリカの政治的リスクは増大しており、将来見通しの不確定要因。

（3）需要サイド

最近の原油価格の低下は、2020 年までの世界原油需要の増加にそれほど大きな影響を与えない。これは、世界経済がより石油に依存しない経済へと転換していること、天然ガス市場のグローバル化、再エネの価格低下等による燃料間の競争といった構造的な変化が背景。

（4）価格

今後の原油価格の前提（assumptions。予測（forecasts）ではない）は、2015 年平均で 55 米ドル/バレル、2020 年には、徐々に上昇後、73 米ドル/バレル。市場は以前の高価格の近い将来の再来を期待していない。

2. 供給

- (1) 米国のLTO供給は、生産量増加の影響のみならず、低価格への反応性の観点からも game changer。LTOは、生産までの短いリードタイム及び短い投資回収期間、坑井レベルでの急速な減衰率などにより、従来型の原油よりもはるかに価格弾力的。最近の原油価格低下は、既に米国LTOの掘削設備の急激な減少を引き起こしており、従来型原油で典型的に予想されるよりもきわめて速い速度で供給側の反応を示している。こうした生産革命は、結果として従来のOPEC諸国と非OPEC諸国の役割を効果的に減殺している。

3. 需要

- (1) 石油輸出国における石油需要は、石油価格低下により減少、特にロシアは、国際制裁による影響とともに大きな打撃。一方で、石油輸入国において石油需要が大きく増加する見通しにはつながりにくい。その理由としては、石油価格低下がデフレ見通しや貯蓄率増加につながり経済に下降圧力をかける。さらには、弱い通貨は米ドル表示の安い原油価格の影響を弱めるとともに、この機会に補助金削減に取り組む国では、最終消費者にその恩恵が見えにくい。
- (2) また、世界経済が従来より石油に依存しない経済への移行（中国の経済構造変化やIT革命の影響）や、再エネ・天然ガスの価格競争力向上による燃料構成に占める石油の役割の縮小により、石油価格の低下が石油需要に与える影響を弱めている。

4. 石油精製

- (1) 世界の石油精製能力は拡大しており、2020年には640万バレル/日増加し、約1億200万バレル/日まで増加。しかしながら、精製設備を利用しない液体天然ガス、バイオ燃料等の液体燃料が、増加する製品需要の約1/3を満たすことが予想される結果、精製マージンに対して圧力をかけ続け、更なる設備合理化は不可避と見通される。